

## 学校関係者評価委員会 議事録

1. 開催日時：令和7年6月18日（水）14：00～15：50

2. 出席者：【学校法人明星学園 国際医療専門学校 学校関係者評価委員会】

委員長 二瓶 律子 （秀和総合病院 副院長）  
副委員長 猪浦 一人 （埼玉県済生会加須病院 臨床検査科科长）  
委員 小袋 伸枝 （浦和学院高等学校 副校長）  
委員 橋本 寛子 （本校卒業生、看護師、薬剤師）  
委員 高橋 祐太 （本校卒業生、臨床検査技師）

【学校法人明星学園 国際医療専門学校 自己評価委員会】

委員長 遠藤 貞子 （学校長）  
副委員長 山崎 眞奈美 （副校長）  
委員 黒川 由美子 （看護学科 学科長）  
委員 伊藤 隆志 （臨床検査学科 学科長）  
委員 石橋 佳朋 （臨床検査学科 学科長補佐）  
委員 藤原 美香 （臨床検査学科 副学科長）  
委員 大出 幸子 （看護学科 教員）  
委員 徳大路 洋史 （臨床検査学科 実習調整者）  
委員 安田 富子 （学生サポート部）  
委員 伊藤 恵子 （学生サポート部）  
委員 遠山 卓 （事務長代行）  
委員 塩田 雅子 （事務主任）  
委員 田中 里美 （教務事務）  
委員 久保田 江里子 （看護学科 教員補助）  
欠席者：委員 津坂 美保 （看護学科 実習調整者）  
委員 宮田 浩 （臨床検査学科 教員）

3. 開催場所：国際医療専門学校 2号館 2階セミナー室

以下の出席者は、Web会議システム「Zoom ミーティング」により参加。

副委員長 猪浦 一人 （埼玉県済生会加須病院 臨床検査科科长）  
委員 小袋 伸枝 （浦和学院高等学校 副校長）

4. 議事次第： 1) 校長挨拶

2) 学校関係者評価委員自己紹介

- 3) 学校関係者評価委員長挨拶
- 4) 教職員自己紹介
- 5) 自己点検自己評価まとめについて（資料添付）
- 6) 前年度学校関係者評価委員会後の取り組みについて
- 7) 学校関係者評価委員からの評価
- 8) 質疑について回答
- 9) 総括

5. 配付資料：令和6年度国際医療専門学校 自己点検自己評価まとめ（事前配布）

## 6. 議事内容

### 1) 校長挨拶及び会議成立について

遠藤校長より出席された委員の皆様への御礼とともに、学校教育法第109条の規定に基づいた学校関係者委員過半数の出席により、委員会の成立を宣言した。

### 2) 学校関係者評価委員会自己紹介

学校関係者評価委員5名が自己紹介を行った。

### 3) 教職員自己紹介

自己評価委員が自己紹介を行った。

### 4) 山崎副校長より令和6年度の学校運営や教育活動の成果と課題について報告した。

### 5) 令和6年度自己点検自己評価実施内容の結果報告（資料添付）

遠藤校長・黒川学科長・伊藤学科長・遠山事務長代行・安田教員・塩田事務職員から〔自己点検自己評価全体まとめ〕〔I.学校経営〕〔II.教育課程・教育活動〕〔III.入学・卒業対策〕〔IV.学生生活への支援〕〔V.管理運営・財政〕〔VI.施設設備〕〔VII.教職員の育成〕〔VIII.広報・地域活動〕の8つの自己評価項目の結果についての報告を行った。

### 6) 令和5年度学校関係者評価委員会後の取り組みについて

石橋学科長補佐から令和5年度学校関係者評価委員会で明らかになった主な取り組みと課題について報告を行った。

### 7) 質疑応答、評価

#### 二瓶委員長

#### 印象に残った点

・様々なPR活動、多様な入試方法、学費負担軽減策等、入学希望者の学校選択の幅を広げられた事は優秀な人材を確保するために大変有効であると感じた。看護学科は前年度よりも上回る学生確保が出来、定員割れの学校があるなかで大変良い結果が得られたと思う。

国家試験対策は各学科とも個別支援やデータ分析を活用し、教員の方々が一丸となって関わった結果、多くの合格者を出されたことは評価すべき点と考える。一人ひとりの能力や学習環境に考慮しながら国家試験対策に取り組まれた先生方のご努力

に感謝申し上げたい。

- ・学生を多面的にサポートする部門として学生サポート部、キャリア支援室、スクールカウンセラーの配置等、様々な角度からの学生支援体制が大変実りある結果に繋がっていると感じた。関わる先生方のご負担も大きかったと思うが学生が安心して学び続けることが出来る環境づくりが必要不可欠と感じる。

精神的サポートとして行っているスクールカウンセラーの全学生との面談は大変な時間とエネルギーが必要だと思うが、ストレス耐性が低くなっている昨今、とてもよいアプローチであると感じる。

実際にメンタルサポートを受けた学生が過去に入職してきたが、カウンセラーとの関わりは大変有意義で、「自分の改めるべき点があった。」と話している点が印象的であった。

学生にとってスクールカウンセラーとの良好な関わりは人生における気づきを得られる貴重な機会になっていると感じる。これらの活動は今後も継続していくことを期待している。

- ・令和6年度、当院にて初めてクラウドを活用した臨地実習を体験した。初めは慣れない点もあったが、カンファレンスや記録の確認などでは大変読みやすいと実習指導者からは好評である。ICTやデジタル化など時代に合わせた実習形態にいち早く取り組まれた点は、大いに評価したい。

病院からのお願い

- ・卒業後の就業フォローについて

第二新卒と呼ばれる就業希望者が確実に増えている。新卒として希望の医療機関に就職しても所属部署での多重課題をこなせない、先輩上司との人間関係がうまくいかない、イメージした看護師業務とのギャップ、卒業後教育に対する不安などの理由から1年以内に退職してしまうことが理由のようである。すぐに退職を選択することは、目の前の困難を乗り越える成長のチャンスを失うことになる考える。

人の命を預かる責任を重たく感じ、看護師に向いていない、職業選択自体を考えるケースがあった。学生たちが社会の実践の中で何に悩み、どのように対処したらよいか相談対応を卒業後もアフターフォローという形でお願したい。

ホームカミングデーが卒業生の悩みを語れる場として活かしていただきたい。それらの悩みを臨床現場へフィードバックしていただき、入職後の臨床側からのフォロー体制に繋がりたい。

### 猪浦副委員長

臨床検査学科

- ・教育課程編成に関すること

「再試験数や未修得科目数の減少が実力を伴った減少となっているのか、検証を行

う必要がある。」との事だが、授業時間数を減らし未修得科目数が減少しているということは全体的にレベルが下がらないのか心配である。早めの検証が必要であると感じる。

- ・実習に関すること

令和6年度から臨地実習で新しい制度が始まり、国際医療専門学校では「大きな混乱もなく運用することができた。」との事だが他校では内視鏡が実施できなかった等の話を聞いた。国際医療専門学校では問題なく行えたのであれば臨地実習を行う学校間で情報交換が必要であると思う。

- ・質の高い卒業生の輩出に関すること

臨床検査学科の導入している RTGS 指数と国家試験合格や成績がどのようにマッチングし、指数がどのように活かされていくのか教えていただきたい。

#### 質問の回答

- ・再試験数や未修得科目数の減少、学生のレベルについて伊藤学科長が回答した。

学年制では科目が未修得であっても3年生の臨地実習を行うことができたが、単位制が導入されてからは一つでも単位を落とすと臨地実習に行けなくなった。学生を臨地実習に向かわせることを優先し、採点を行った先生が多かったのではないかとと思われるため、成績に表れない部分でのレベルの低下を懸念している。ご指摘の通り、実際の実力を検証する必要があると感じている。

- ・臨地実習に関して伊藤学科長が回答した。

新しい指定規則に変わり各施設に実施可能か事前調査し、前年度の臨地実習指導者連絡会を実施した後に学生の割り振りをしたため問題なく臨地実習を行うことができたのだと考えられる。

- ・質の高い卒業生の輩出に関することについて伊藤学科長が回答した。

RTGS 指数は、性格検査 GET と適性検査 SPI およびこれまでの再試験数を係数としてかけ合わせた指数である。性格検査 GET からは3つの項目を見ることができる。

過敏性は刺激に対して動じやすい

弾力性はストレス、困難に対して心が折れない

自制性は自分をコントロールすることができる

成績が優秀な者は過敏性が低く弾力性、自制性が高い。模擬試験の成績結果と性格診断を踏まえた RTGS 指数はグラフ化すると高い相関があるので、RTGS 指数が高い学生程、成績が伸び悩む傾向にある。RTGS 指数が高く、留年や国家試験不合格になる可能性が高い要注意者 11 名を抽出し、12 月後半から国家試験直前まで個別指導を行った。

#### 猪浦副委員長より

RTGS 指数が 10 を超える学生だが、半数近くは卒業・国家試験に合格できたことほどのように解釈すれば良いのか、と質問があった。

質問に対し石橋学科長補佐が回答した。

令和6年度の結果では、卒業できない学生、国家試験不合格者はRTGS指数が10を超えている学生がほとんどであった。RTGS指数が10未満の学生で、卒業したが国家試験不合格となったのは1名のみであった。RTGS指数が高い学生は「卒業できない、国家試験不合格」と相関性がかなり高いことが令和5年度のデータから分かっていたため、RTGS指数が10を超える学生を含む要注意者の個別指導を行い、そのうち6名は卒業、国家試験合格までもっていくことができた。

質問に対し伊藤学科長が回答した。

RTGS指数を含め、過去の模擬試験や卒業試験のデータから国家試験の予想得点も算出し、予想得点が120点に満たないものを中心に指導を行っていた。

高橋委員より

RTGS指数については3年生に対して使っているものなのか、と質問があった。

質問に対し石橋学科長補佐が回答した。

再試験数を入れるので最低でも2年生以上であり、ある程度データが集まるのは3年生になる。実際に高い相関まで入れて運用できるのは3年生になる。

高橋委員

3年生で半数が卒業できなかったという点では、せっかく抽出できているのに1年間では間に合わなかったのではないかと。指数は有意義なものなので2年生から活用できれば、早い段階でアプローチできるのではないかと思う。

伊藤学科長

3年生のRTGS指数とその学生が2年生だったときの終講試験結果の相関については視覚的にグラフ化し、現2年生の4月のガイダンスにおいて提示している。RTGS指数に含まれる再試験数が重要であることを認識させることで現2年生の具体的な学習計画に繋がっている、と回答した。

#### 小袋委員

- ・例年に比べ再履修の多い科目もあるのは学生の質の問題なのか。
- ・緊急連絡のLINEグループを作成したとあるが、浦和学院高等学校でセキュリティポリシー策定に取り組んでいるため、本校と比べセキュリティポリシーはどのようなものか気になる点である。
- ・9月に浦和学院高等学校で文化祭が実施されるが、国際医療専門学校のブースを作り、学生募集に繋げる取り組みを行う。
- ・2026年度4月から浦和学院中学校が開校する。国際医療専門学校の場所を借用し入学試験を行うので、ご協力をお願いしたい。

## 橋本委員

- ・令和6年度からクラウド臨地実習支援システムを使用した実習は、施設側のスタッフから好評である。お互いに手書きだと読みづらいこともあるが、クラウド臨地実習支援システムはとても良い。WI-FIの利用をさせていただけない施設については学校から引き続き依頼し、良いシステムなので導入していただきたい。
- ・国家試験合格率に関して、目指すところは100%だと思う。入学者が受験をする際、親御さんが学校選びをする際、定員割れがないところ、合格率がより高いところを選ぶ傾向にある。来年度も定員割れがないよう、今年度より国家試験の合格率を上げ、特に全国平均より上回っていたただいた方が学校選びの視点になると思う。今後もこの取り組みを続けていただきたい。
- ・同窓会について  
卒業後、早期退職した者は相談窓口がない。ノウハウのある学校に相談し次の就職に繋がれると良い。

結婚、転居などで学校からの連絡が遠のいてしまうケースがある。外部向け広報の他、学園祭の案内等内部に向けた広報をしていただければ子どもや親戚など学校選びに繋がると思う。また、卒業生は必ず履歴書に国際医療専門学校の名を記載するため、色々な所で繋がることは学校の財産となる。同窓会の活動をしていただきたいと強く思う。

黒川学科長より

クラウド臨地実習システムについて

WI-FIの借用は訪問看護ステーションには、100%ご協力を頂いている。病院では個人情報の観点から徐々に広がっている状況である。

国家試験合格率について

少なくとも全国平均までと考えている。国家試験合格100%を目指すところであるが、学生の「なんとかなる、どうにかしてくれる」といった受け身体制が強く感じられる、と説明した。

遠藤校長より

同窓会について

卒業して間もない学生が相談で来校することがある。学校として同窓会の活動を進めるべく努力する、と説明した。

## 高橋委員

- ・昨年度から1年間外部講師として来させていただき全体的によい雰囲気であると感じている。
- ・授業を受け持ち、学生の事前情報があると授業をやる上で工夫できると感じた。講師会だけでは伝えきれないこともあるため、講師会以外で外部講師と教員とで情報共有できる場があると良い。

- ・最終的に成績を付ける上で 60 点以下を付けてはいけないプレッシャーを感じる。2 年生の講義を担当している為、自分が落とすと実習に行けないことが確定する。例えば他の教科の成績を共有できれば 60 点以下でも仕方がない結果なのか、3 年生でリカバリーできるレベルなのか参考になる。「再試の数が減り、実力が伴っているのか」という点に繋がるが、外部講師が強く感じるのは、自分の付けた 60 点以下の成績により実習に行けなくなるという採点の難しさである。
- ・広報に関して QR コードを活用した説明や、インスタグラムの動画を説明会等で見てもらうなど多くの場で動画を活用すると良いと思う。
- ・看護学科と臨床検査学科で共通したチーム医療の合同授業や、学科間の交流はあるのか。また、看護学科から臨床検査学科、臨床検査学科から看護学科への編入などが出来ると画期的で面白いと思う。勤務している病院で、タスクシフトの取り組みを進めている。

質問に対し黒川学科長が回答した。

チーム医療論は 3 年生が合同授業で 8 時間実施する予定。

質問に対し遠藤校長が回答した。

臨床検査技師の採用人数が少ない所はタスクシフトが進むと採用枠が広がると思う。学校でも力を入れて教育していく。

## 7. 総括

遠藤校長より

本日の議論を通じ課題が明確になってきている。組織の連携強化、運営目標、指針に基づいた意思決定の明確化、職員が理解しやすい共有できる組織運営、人材育成と教職員の負担軽減についてはさらに注力すべき重要な課題である。また卒業生のフォローアップも検討課題である。本日のご意見をもとに具体策を検討し適切な改善に努めていきたい。

以上

文責 塩田